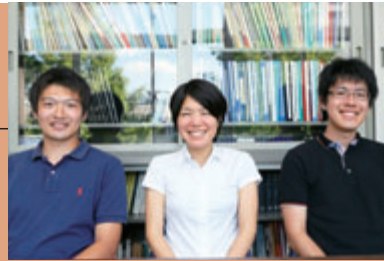


いっしょに歩いたのは…

埼玉大学大学院
理工学研究科

助教 小嶋文先生(中央)
修士2年 府中晋之介さん(左)
修士1年 大柳和紀さん(右)



都市交通の研究者。研究内容は幅広く、氷川参道で一方通行施工後の成果を検証したり、交通問題のアンケートで無回答だった人がどのように考えているのかなど、身近で興味深いテーマに取り組んでいます。

変わりゆくまちを 実際に歩いて 検証!


東西の交通が一つにつながり、生まれ変わる浦和駅周辺。完成後、車や人、自転車はどのような流れになり、どのようなまちになるのでしょうか。都市交通の研究をしている方々と実際にまちを歩き、交通の観点からお話をうかがいました。




3つの機能が整い 浦和駅周辺の魅力が向上

人と車が共存する都心道路には、3つの機能が必要です。田島大牧線の完成で、車両が走る「トラフィック機能」、沿道の建物へ出入りし自由に回遊できる「アクセス機能」、駅前広場で快適に過ごせる「空間機能」の3つの機能が整います。

駅周辺の道路は、田島大牧線に車両が分散することによりいろいろな使い方ができるようになり、浦和のまちの魅力も向上します。

 道路が広くなれば渋滞も解消され、人が安心して歩けるので、回遊しやすくなると思います。

車両と歩行者の道路が分離されるとロータリーの空間が広がると駅を降りた人に「このまちいいな」と思ってもらえるのでは。



田島大牧線が完成することで
便利で快適な
都市交通が実現



鉄道が高架化することで
西口と東口がつながり
一つの空間になる




新しい駅前広場が完成することで
歩く人にもっとやさしい
空間が生まれる




人の流れが生まれ 快適な歩行空間ができる

バリアになっていた鉄道が高架化されると、人の流れが生まれます。西口と東口が地上でつながるのは、歩行者だけでなく自転車にもやさしい構造。安全で快適な歩行空間ができることで、行動範囲も広がります。

私たちの研究でも、駅からの空間が明るく楽しいと、歩く距離も比例して伸びるという統計が出ています。

 東口で映画を観て西口で遊んで、と行き来がしやすくなると滞り時間が長くなると思います。バスの乗り継ぎも簡単です。

 東と西がつながることでそれぞれの個性が合わさり、浦和という一つの魅力あるエリアと感じられるようになると思います。

korekara では、さいたま市が目指す都市づくりの方針をわかりやすくご紹介いたします!

浦和駅周辺のまちづくりは、魅力的な商業業務機能の強化を目指すという、さいたま市の都市計画に基づいて進められている事業です。今年度のkorekaraでは、さいたま市が目指す都市づくりの方針について、具体例を出しながらわかりやすくご紹介いたします。


人口減少、少子高齢化、環境問題などに対応するための「持続可能なまちづくりに向けた今後のさいたま市の都市計画のあり方」をまとめた都市計画の詳細は、さいたま市ホームページ(トップページ→事業者向け→まちづくり・交通・建設→都市計画→都市計画マスタープラン)にあります。皆さんもいっしょに、これからのまちづくりについて考えてみませんか。

問合せ 都市計画課 ☎829-1403

開放的な広場を 笑顔あふれる空間に

新しい駅前に広場が完成することで、歩く人によりやさしい空間が生まれます。

私たちの研究でも、車の多い道路に比べて車の少ない道路を歩いている人は、笑顔が多いという傾向が出ています。浦和駅周辺も、笑顔があふれるまちになるとよいですね。

 駅前広場はただ通るだけでなく、ベンチを置いて憩いの場となるような空間になればよいと思います。ベンチがあると、違法駐輪も減るという調査結果もあります。

都市空間の中に広々とした開放感を求めるというのは、自分はずこいかなと思います。また、人が多く集まる場所だけに、緊急避難所としても活用できますね。